



「クレジット・スコアリング研究会」の発足について

— 地方銀行を対象とした中小企業融資 BPR への取り組み —

2000 年 7 月 12 日

株式会社 日本総合研究所

研究事業本部 / 金融ソリューション事業本部

< お問い合わせ先 >

株式会社	日本総合研究所	研究事業本部
担 当：	上野 博	uenohi@ird.jri.co.jp
	TEL 03-3288-4636	FAX 03-3288-4135

要 旨

株式会社 日本総合研究所（本社：東京都千代田区一番町 16 番、社長：小井戸雅彦）では、米国 Fair Isaac（フェア・アイザック）社と共同で、地方銀行・第二地方銀行向けに中小・零細企業向けクレジット・スコアリングモデルを構築するための研究会（名称：「クレジット・スコアリング研究会」）を実施することと致しました。

１．研究会発足の背景

地域金融機関では、地方における大手融資先数の少なさや利ざやの低迷から運用難が続き、中小・零細企業向け融資増強のニーズがこれまでになく高まっています。そのような中で個別に案件を審査し、担保などの見返りを固めて融資する従来の審査・融資方式では、1 件あたりの金額が小さく件数が非常に多いことなどから、中小・零細企業融資への取り組みを強化することは困難が見込まれています。

２．「クレジット・スコアリング研究会」の取り組み

本研究会ではこれらの課題をクリアするため、次のような取り組みを行います。

- （１）複数銀行の参加により個別行が集めるべきデータ数を低減する。
- （２）共同でスコアリングモデルを開発する。
- （３）ASP 方式の利用を目指す。

本研究会では、地銀・第二地銀を対象を絞ったスコアリングモデルを構築します。都銀と地銀あるいは中小金融機関では、中小企業の定義も大きく異なる場合があるため、基本的なレベルを揃えてモデルの性格をより明確にするためです。また、一般中小企業に加え、個人事業主向けのスコアリングモデルの構築も行う予定です。

３．研究会活動

研究会はフェーズ 1・2 に分け、今回はフェーズ 1 の募集を行います。

フェーズ 1：2000 / 9 ~ 2001 / 5

フェーズ 2：2001 / 7 ~ 2002 / 3

４．セミナー開催のご案内

研究会に先立ち、弊社とフェア・アイザック社は、8 月 1 日に共同でセミナーを開催し、米国におけるクレジット・スコアリングの利用状況や事例、および日本における導入の意義と研究会の実施計画等についての説明を行います

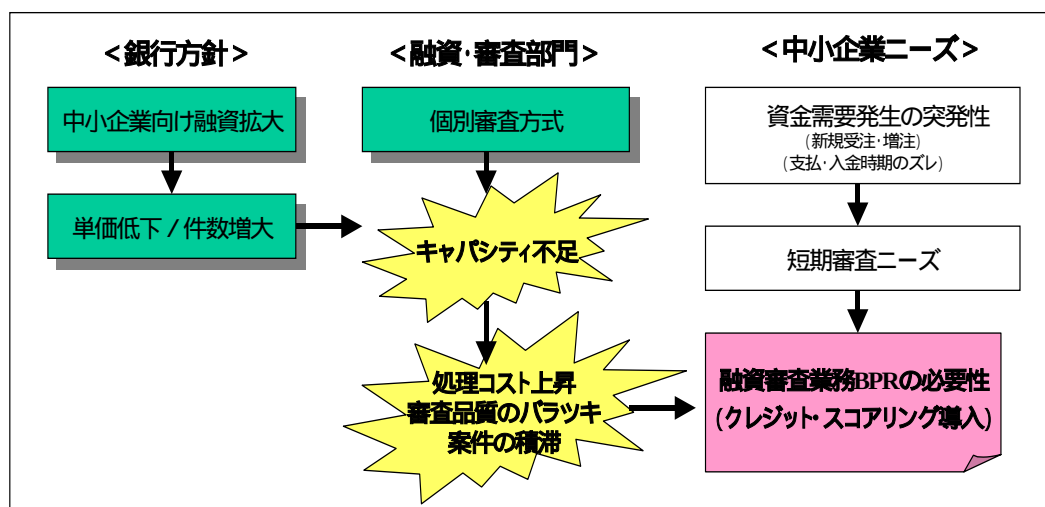
「クレジット・スコアリングモデル研究会」の発足について

株式会社 日本総合研究所では、米国 Fair Isaac (フェア・アイザック) 社と共同で、地方銀行・第二地方銀行向けに中小・零細企業向けクレジット・スコアリングモデルを構築するための研究会(名称:「クレジット・スコアリング研究会」)を実施することと致しました。本研究会の目的は、研究会に参加頂く地銀・第二地銀とクレジット・スコアリングのモデルを共同開発し、それを ASP (Application Service Provider: アプリケーション・サービス・プロバイダ) 方式で利用に供するというものです。

1. 研究会発足の背景

地域金融機関では、地方における大手融資先数の少なさや利ざやの低迷から運用難が続いており、さらに従来運用していた高利回りの国債が順次償還時期を迎えることなどから、中小・零細企業向け融資増強のニーズがこれまでになく高まってきています。また、日本経済を支えてきた中小企業の活力を維持・増強するために、中小企業向け融資により積極的に取り組むことが金融機関に期待されています。しかし一方で、個別に案件を審査し、担保などの見返りを固めて融資する従来の審査・融資方式では、1件あたりの金額が小さく件数が非常に多いうえ、借入ニーズの発生から資金利用までの時間が短い中小・零細企業融資への取り組みを強化することは、コスト・キャパシティ・スピードなどの様々な側面から困難が見込まれています。

中小企業向け融資拡大における金融機関の課題



2. クレジット・スコアリングとは

クレジット・スコアリングは、統計的モデルに基づいて企業の信用度を点数化して評価し、融資可否の判断を迅速かつ中立的に行うための手法です。元々は個人ローン向けの審査方法として米国で 1950 年代に開発され広く普及したのですが、米国では 1990 年代の半ばからこれを中小・零細企業向け融資にも利用する動きが広まってきており、小口法人融資業務の大幅な合理化・審査時間短縮や、貸出増加、スコアリングを利用した新商品開発など、様々な事例が報告されています。

クレジット・スコアリングの期待導入効果

中小企業向けニュービジネスの拡大

- ・中小・零細企業に対する融資基盤の拡大

融資業務のBPR(ビジネス・プロセス・リエンジニアリング)

- ・担当者 / 営業店による融資品質のバラツキの解消
- ・審査スピードの向上 / 融資プロセスの合理化

リスクに応じた融資利率の設定

- ・担保主義からリスクプレミアム主義への転換
- ・合理的な収益シミュレーションの実現

中小企業向けサービスの拡充

- ・申込～認可のスピードアップ
- ・スコアリング利用融資商品の開発

3. クレジット・スコアリングの問題点

しかし、スコアリングモデルの構築・運用には次のような課題もあります。

- (1) モデル構築のためには多数のサンプルが必要になること
- (2) 個別行でモデル構築・システム開発を行うと投資負担が大きいこと
- (3) 運用段階ではシステムメンテナンスやモデル更新の手間・コストが発生することなどです。

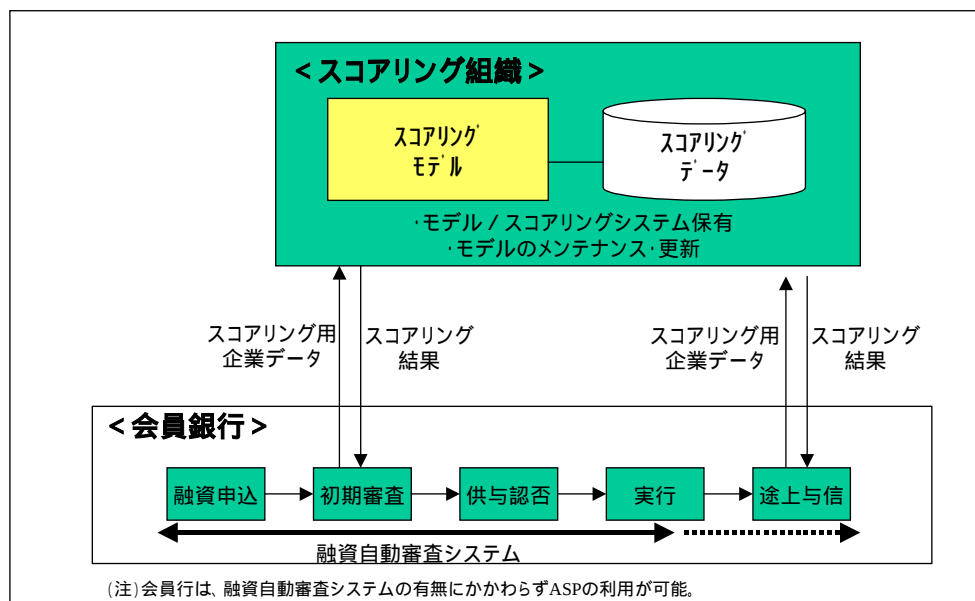
4. 「クレジット・スコアリング研究会」の取り組み

本研究会ではこれらの課題をクリアするため、次のような取り組みを行います。

- (1) 複数銀行の参加により個別行が集めるべきデータ数を低減する。
- (2) 共同でスコアリングモデルを開発する。
- (3) ASP 方式の利用を目指す。

すなわち、スコアリングシステムは外部企業が保有し、金融機関は必要なデータをこの企業に送ってスコアリング結果を得て手数料を支払う。個別行はこれにより、システム投資金額を大幅に低減できるとともに、投資を全て変動費化し、メンテナンスの手間やコスト、人員負担からも免れることができます。

ASP 方式によるクレジット・スコアリングの運用イメージ



(注) ASPとは:Application Service Providerの略。アプリケーション・システムを外部機関が保有し、ユーザー企業は端末などを使って通信回線経由でシステムを手数料ベースで利用するサービス形態。ユーザー企業はシステム投資負担、メンテナンスの手間等を免れると同時に、システム投資の変動費化、システム更新・バージョンアップ対応の外部化が図れる。

本研究会では、地銀・第二地銀に対象を絞ったスコアリングモデルを構築します。都銀と地銀あるいは中小金融機関では、中小企業の定義も大きく異なる場合があるため、基本的なレベルを揃えてモデルの性格をより明確にするためです。また、一般中小企業に加え、個人事業主向けのスコアリングモデルの構築も行う予定です。

5．研究会活動概要

研究会はフェーズ１・２に分け、今回はフェーズ１の募集を行います。予定している各フェーズの内容および時期は次のとおりです。

<フェーズ１：2000／9～2001／5>

- ・クレジット・スコアリングの仕組みおよび米国利用事例の研究
- ・日本における中小企業向けスコアリング導入方法の検討
- ・汎用スコアリングモデルの構築（必要データの収集→モデル構築）
- ・汎用モデルの試用
- ・実用モデルの検討
- ・実用モデル構築・運用段階への準備
（モデルとシステムの構築費用、ASP 企業形態、利用料率などの決定）
- ・参加費用：300 万円

<フェーズ２：2001／7～2002／3>

- ・実用モデルの構築
- ・スコアリングシステムの構築
- ・ASP 企業設立
- ・個別行接続システム構築
- ・運用開始（2002／4～）
- ・参加費用：フェーズ１で決定

6．セミナー開催のご案内

なお研究会に先立ち、弊社とフェア・アイザック社は、8月1日に共同でセミナーを開催し、米国におけるクレジット・スコアリングの利用状況や事例、および日本における導入の意義と研究会の実施計画等についての説明を行います。開催要領は次のとおりです。

名 称：「クレジットスコアリング・セミナー」
日 時：8月1日（火）13：30～17：00
場 所：株式会社 日本総合研究所 本社セミナールーム
（千代田区一番町 16 番）
対 象：地方銀行、第二地方銀行（ご参加は各行当り 2 名まで）
費 用：無料
問合せ先：Tel.03-5431-6582 担当 田中・西森・松本

<参考：フェア・アイザック社>

フェア・アイザック社（本社：米国カリフォルニア州サン・ラファエル）は米国におけるクレジット・スコアリングのパイオニアであり、個人向け／中小企業向けスコアリングをはじめとするリスク計量モデル分野におけるリーダー企業です。同社は1956年に設立、スコアリングモデルを世界で初めて開発してから、一貫して業界リーダーの地位を保ってきました。90年代初めには中小企業向けスコアリングを開発しています。また96年にはニューヨーク証券取引所に上場しています。社員数はおよそ2000名、99年の売り上げ高は277百万ドルです。

○ 沿 革

1956	設立。スコアリング提供開始
1970 代	ビヘイビア・スコアリング開発
1987	NASDAQ 上場
1990 代初	中小企業向けスコアリング開発
1993	日本支社設立
1996	ニューヨーク証券取引所上場

業績推移				主要顧客	
	97年	98年	99年	<米 国>	<日 本>
売上高	199	246	277	・Bank of America ・Chase ・Citibank ・GE Capital ・VISA ・MasterCard ・Barclays Bank ・Merrill Lynch ・GM ・Crysler ・AT&T ・American Express	・銀行(8) ・消費者・事業者金融(9) ・銀行系カード(18) ・その他カード・信販(7) ・リース(3)
営業利益	38	40	46		
純所得	21	24	30		
総資産	145	190	210		
資 本	103	133	156		
(注)単位百万ドル、9月末決算時点				(出所)いずれもFair Isaac社資料より日本総研作成	

以上